



軽防協ニュース速報

2019年第2四半期(4月-6月)の伝染病発生状況

2019年9月配信

(International Collating Centre からの情報)

この記事は、2019年第2四半期(4月-6月)の各国の伝染病発生状況を要約したものである。

アルゼンチン

報告事項なし。

カナダ

カナダの全ての症例の発生は、第1四半期以降の中間報告として既に報告されていることに注意されたい。

ドイツ

有限会社 Dr.Boese 研究所 (HBLB CEMO 認定研究所) からの追加結果

馬伝染性子宮炎 (CEM)

複数の施設で、アイスランド種 22 頭 (牝馬 3 頭と種牡馬 19 頭) で CEM の発生が報告された。生殖器スワブの培養および PCR 検査により、陽性判定された。

エールリヒア症 (*Anaplasma phagocytophilum*)

異なる 2 施設で、2 例が確認された。臨床症状に発熱を認めた。EDTA 血液による PCR 検査によって陽性判定された。

ウマヘルペスウイルス 1 型 (EHV-1) による流産

2 施設で 2 頭の繁殖牝馬で確認された。臍、胎盤、肺吸引液のサンプルから PCR 検査によって確定診断された。

EHV-1 による神経型疾患

EHV-1 による神経疾患は異なる 2 施設で 2 例確認された。鼻咽頭スワブ、EDTA 血液の PCR 検査によって確定診断された。

EHV-1 による呼吸器疾患

5 施設で 12 例確認された。臨床症状は発熱と呼吸器症状で、鼻咽頭スワブの PCR 検査によって、確定診断された。

ウマヘルペスウイルス 4 型 (EHV-4) 感染症

複数の施設で 11 例の EHV-4 の発生が確認された。臨床症状は発熱と呼吸器症状で、鼻腔スワブの PCR 検査によって確定診断された。

ロタウイルス

1 施設で 2 頭の子馬にロタウイルスが確認された。臨床症状として下痢を認め、糞便サンプルの抗原 ELISA 検査によって確認された。

腺疫 (*Streptococcus equi* subsp. *equi*)

3 施設でそれぞれ 1 例の腺疫が報告された。臨床症状として発熱、鼻汁、リンパ節腫脹が認められた。下顎リンパ節の膿瘍材料 (2 頭) および喉嚢洗浄液 (1 頭) の細菌培養および PCR 検査によって陽性診断が行われた。

アイルランド共和国

***Pseudomonas aeruginosa* による細菌性子宮炎**

1 件 2 例の発生が報告された。

***Klebsiella pneumoniae* による細菌性子宮炎**

1 件 14 例の発生が報告され、全て非生殖器病原性夾膜型であった。

ロドコッカスエクイ感染症

2 例の発生が確認された。

腺疫 (*Streptococcus equi*)

2 例の発生が確認された。

日本

EHV-1 による流産

異なる 3 施設で、ワクチン接種された 3 頭のサラブレッド種牝馬で発生が確認された。確定診断は北海道日高家畜保健衛生所で実施された。

シンガポール

報告事項なし。

南アフリカ

本報告は、南アフリカ馬獣医師協会との共同で最近開発された報告システムを用いた検査機関と民間獣医師からの報告に基づいている。症例数はこの報告を基にしており、政府機関による公式の数字を必ずしも反映していない。

アフリカ馬疫 (AHS)

AHS はウエストケープ州の AHS 管理地域を除いた南アフリカの風土病である。AHS 症例は、例年より発生数が多く、9 州のうち 8 州で発生した。ウエストケープ州の AHS 感染区域および管理地域いずれも発生は確認されなかった。

ウマ脳症

散発的に、南アフリカの 9 州のうち 6 州で確認された。

州	症例数
Gauteng	15
Kwazulu Natal	11
Limpopo	1
Mpumalanga	2
North West	4
Western Cape	6

ピロプラズマ病

ピロプラズマ病は南アフリカで風土病とみなされており、散発的に南アフリカ全土で確認されている。

州	症例数
Eastern Cape	1
Free State	1
Gauteng	25
Mpumalanga	3
North West	5
Western Cape	2

ウエストナイル熱

ノースウエスト州で、1 例確認された。

韓国

報告事項なし。

トルコ

報告事項なし。

イギリス

英国のすべての症例の発生はすべて第 2 四半期以降の中間報告で既に報告されている。腺疫は英国では変わらず風土病である。

アメリカ合衆国

クロストリジウム性腸炎

Clostridium perfringens 感染症が 27 例確認され、そのうち A 型毒素遺伝子型株が 7 例あった。*C. difficile* 感染症も 15 例診断され、毒素 A、毒素 B 陽性株も数例認められた。

馬インフルエンザ (EI)

EI はアメリカにおいて風土病である。少なくとも 7 州で確認された。8 件の流行が認められ、1 州では、連続した月で発生が確認された。

馬瘡疹

ケンタッキー州でウマヘルペスウイルス 3 型の感染が 2 例報告された。

コロナウイルス感染症

2 頭の馬の剖検検査で診断されたが、どちらの死亡もコロナウイルス感染が死亡の原因とまでは考えられなかった。

東部馬脳炎

7 例確認され、全てがフロリダ州での発生であった。

ウマヘルペスウイルス感染症

EHV-1、EHV-4 の感染は、特に子馬の呼吸器疾患の原因として多くの州で発生している。EHV-1 による流産が 3 例確認された。10 州で合計 11 件の EHV-1 による神経型疾患の発生が確認されたが、その多くが単一の症例であった。

ウマヘルペスウイルス 2 型、5 型 (EHV-2&5)

EHV-2、EHV-5 の多数の症例が報告されており、呼吸器疾患に関連していた。

馬伝染性貧血 (EIA)

EIA は 5 州で確認された。合計 19 例が診断され、その大部分がアイオワ州とテキサス州であった。

馬ネオリケッチア症 (ポトマック馬熱)

ケンタッキー州で陽性 1 例と疑わしい症例が 1 例、報告された。

レプトスピラ症

レプトスピラ症が出生後に生存した子馬の胎盤から確認された。

ロドコッカス感染症

Rhodococcus equi 感染症はアメリカにおいて風土病であり、2019 年第 2 四半期で 42 例が確認されているが、これだけではないものと考えられている。

ロタウイルス性腸炎

多くのロタウイルス性腸炎の発生が認められ、6 月に最も多くの症例が確認された。5 州で診断された 65 例のうち、59 例は G14P 遺伝子型であり、6 例が G3P 遺伝子型の株であった。

サルモネラ症

複数のサルモネラ症の発生が確認され、30 例は B 群に、2 例が C2 群サルモネラに感染していた。

腺疫

腺疫はアメリカにおいて風土病である。少なくとも 23 の州で診断され、7 州で複数の症例の発生が認められている。

ティザー病

ケンタッキー州で 3 例の子馬の発生が確認された。

水胞性口炎

インディアナ血清型による 3 件の発生が 6 月に確認され、2 件はテキサス州の施設、1 件はニューメキシコ州の施設であった。本疾病は、アメリカでは越境性の疾患であり、ここ数年間は報告されていなかった。